

伊方原発復水器細管のトラブル 「1日1回」清掃のはずがフジツボ付着？

12月2日、四国電力は伊方3号機の再稼働を強行しました。ところが12月10日には、復水器の海水圧力の差が大きいとして出力を低下させました。

四電は、発電タービンの蒸気を冷却して水に戻す復水器の細管に、フジツボなどの海生生物が付着しているため清掃するとしました。四電のプレスリリースは、1月4日に予定していた定検終了を1月24日に延期するなどの文面だけで、図は提示されていません。

2002年は詳しく資料を公開

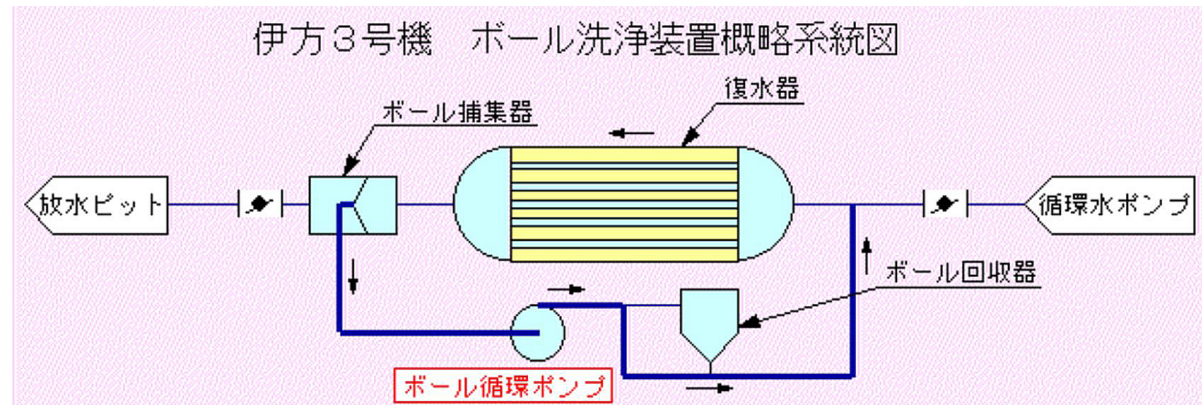
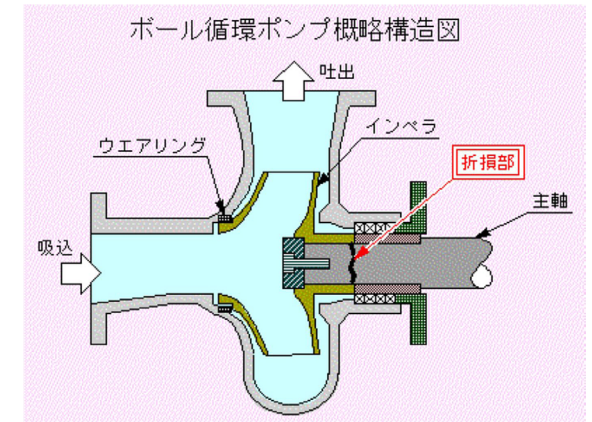
福島原発事故から約9年前の2002年4月、プレスリリースは「伊方3号機復水器ボール洗浄装置ボール循環ポンプBの不具合について」を公表。この洗浄装置は「スポンジボールを1日1回復水器細管内部に通し、内面に付着する海生生物を除去・清掃している」と

伊方原発をとめる会

〒791-8015 松山市中央2丁目23-1 平岡ビル201
電話 089-948-9990 FAX089-948-9991
ホームページ <http://www.ikata-tomeru.jp>

記しています。(中央図参照)

同年6月10日には、スポンジボールを押し出すポンプBの主軸が折れていたことを公表しました。(右図参照)



この二つの図は2002年に四電プレスリリースで公表されたもの

なぜ清掃できていなかったのか？ あまりにも「おそまつ」では！

「1日1回清掃」をどうしていたのか。洗浄装置のポンプAやBは動作していたのか？「復水器の伝熱性能を維持するために」清掃するとしていたことから、熱交換の性能も低下したはずです。

長く清掃せず、再稼働をあせり、チェックもしなかったとすれば、あまりにもお粗末で

はないのか。事実を公表すべきです。

「福島」以前より 四電の情報公開は後退

四電の情報公開は「福島事故」以前より後退しています。「保安規定違反」公表が何年も遅れた問題にしても、今回の問題にしても、四国電力だけでなく、愛媛県や規制委員会の姿勢も問われています。